

会 議 の 要 旨 (議 事 録)

会 議 の 名 称	第29回鳥栖市地域公共交通会議、第29回鳥栖市地域公共交通活性化協議会 合同会議		
開 催 日 時	平31年3月18日(月) 14:00～	開 催 場 所	市役所3階大会議室
出 席 者 数	27人	傍 聴 人 数	1人
議 題	議案第1号 鳥栖市ミニバスの臨時運行について(案) 報告 鳥栖市地域公共交通調査検討業務の報告について		
配 布 資 料	議案第1号 鳥栖市ミニバスの臨時運行について(案) 報告 鳥栖市地域公共交通調査検討業務の報告について		
所 管 課	(課名) 国道・交通対策課 (電話番号) 85-3602		

協 議 （ 議 事 ） 録

議 題	第 29 回鳥栖市地域公共交通会議及び鳥栖市地域公共交通活性化協議会 合同会議
日 時	平成 31 年 3 月 18 日（月）14 時 00 分～15 時 00 分
場 所	鳥栖市役所 3 階大会議室
出席者	○<委員> 井上委員、伊佐委員、橋本委員、中島委員（代理：櫻木氏）、高松委員（代理：伊藤氏）、多々良委員、浅倉委員、江上委員、小石委員、藤委員、黒田委員、長委員、今村委員、野崎委員、岸川委員、杉野委員、松雪委員、香川委員（代理：古賀氏）、川内野委員、三木委員、永松委員（代理：安田氏） ●<事務局> 国道・交通対策課ほか 6 人

《結果》

議案第 1 号 鳥栖市ミニバスの臨時運行について（案）【承認】

《意見等》

【報 告】

○資料 P4（路線バス・ミニバスの利用頻度）に関しては、地域別に見るべきではないかと考える。また、今回のアンケート調査の平均年齢、また前回（平成 20 年）のアンケートの平均年齢を教えてください。

●平均年齢ではなく 65 歳以上の割合という形での回答となるが、前回の平成 20 年のアンケートでは約 40%が 65 歳以上であった。今回実施したアンケートにおいては、65 歳～74 歳が 30.8%、75 歳以上が 21.3%であり、過半数が 65 歳以上の高齢者ということで、前回より 10%以上増えている。

○高齢者は自らの移動手段に関する話は関心が高いはずであるため、この結果は当たり前なのかもしれない。

○グラフをみると設問ごとに回答人数が異なっているものがあるが、これは設問の特性上やむを得ないものなのか。

●それぞれ無回答を除いて集計しているため、全体数が異なっている。

○運転免許の返納者数は、鳥栖市分だけの数値は分かるのか。

○鳥栖市の運転免許返納者数は警察署で把握している。

○鳥栖市の議論を行うためには、鳥栖市のデータをベースにする必要があるので、極力鳥栖市のデータを集めていただきたい。公共交通、特にバスは高齢者を中心とした需要になっている。高齢者の絶対数はこれからも増加すると思うが、運転免許保有者も増えるはずである。仮に運転免許返納者が今後増加したとしても、公共交通利用者全体では減る可能性の方が大きいのではないかと考える。その辺りを、しっかりと定量的な分析をしていただき、ターゲットとなる層の数字を捉えることが重要であり、データに基づいた対策を考えると、公共交通網形成計画は良いものができると思う。

●ご指摘いただいた数値的なトレンドを含めて詳細な分析をし、議論ができるように準備する。

- 資料 P19（現状の課題の整理）の1つ「移動ニーズとのミスマッチ」は、どの自治体も同様にあると思うが、ニーズに合わせて新たな地域に路線バス・ミニバスを運行できるのか、本数を増やせるのかというと、課題もあると思う。例えば、そのような地域にはタクシーを用いて新たに運行することも考えられる。そのような検討をするために、ミスマッチの具体的な部分が記された資料があれば今後提示いただきたい。
- 参考資料の市民アンケート結果の中で、地区ごとに商業施設や病院など具体的な行先への移動需要について示している。このような部分と実際の路線の運行ルートを比較整合して、今後ミスマッチを分析し、まとめていきたい。今集計しているデータで分析できるものは分析し、来年度は地区に入って意見交換をしていく際に、地域住民の方が必要とされる路線など、ご意見を踏まえた形で考えていきたい。
- 現在の鉄道や路線バス・ミニバス路線が、ニーズの高い行先（商業施設等）をカバーしていない場合は、例えばタクシーでカバーするということか。
- 道路事情などで現在バスが乗り入れられない地区もあると思うので、交通弱者の方に対するきめ細やかなニーズに対し移動手段をどう提供するのかという部分が課題であると考えます。